

世界自然遺産5地域会議（準備会） 議事録

日時：令和5年1月18日（水）15:00～18:00

（世界遺産登録30周年記念「知床世界遺産講演会」終了後）

場所：屋久島環境文化村センター 映像ホール 及び リモート会議

（ユーチューブによるライブ配信あり）

出席者：＜5地域会議構成員＞

世界自然遺産5地域の関係市町村長等24名全員（22市町村長（代理含む）、2公益財団法人理事長）[うち15名が対面、9名がリモート参加]

＜関係行政機関・支援機関＞

塩田康一鹿児島県知事、奥田直久環境省自然環境局長、中村利雄イベント学会会長、
蔵元進地球産業文化研究所専務理事 [対面]

＜学術顧問＞

岩槻邦男東京大学名誉教授 [リモート参加]

※その他屋久島財団役員、随行者、地元関係者、事務局等を含め、合計約160名が参加。

1. 開会

司会（緒方麗）：ただ今より、世界自然遺産5地域会議（準備会）を開催します。今日は、全国の世界自然遺産、5つの地域から、関係市町村、団体の皆様にお集まりいただいております。遠隔地からの方々も多く、会合は、対面とリモートのハイブリッド式で進めてまいります。最初に、開会に当たってのご挨拶をいただきます。

2. 挨拶

塩田康一鹿児島県知事：

本県は、全国の都道府県の中で唯一2つの世界自然遺産を有する県になっている。屋久島では、自然と人が共生する特有の生活文化に基づく、個性的な地域づくりの試みである屋久島環境文化村構想の推進や、山岳部の適正利用に向けた取り組み、ヤクシカによる農作物・森林被害対策、CO2フリーの島づくり等を推進している。また奄美大島・徳之島では、奄美群島持続的観光マスタープランに基づいて自然環境の適正な利用ルールの運用や、奄美トレイルの活用を推進している。

ご出席の皆様の各地域においても、関係の方々連携のもと様々な取り組みが進められていると思う。本日、国内全ての世界自然遺産地域の関係市町村長始め多くの関係者が一堂に会し、個別の地域課題や取り組みについて認識を深め、連携強化を図ることは極めて有意義であると思う。また2025年の日本国際博覧会のTEAM EXPO 2025プログラムに、この後発足する世界自然遺産5地域会議として参加予定とも伺っている。共生や環境文化という日本型の自然保護のメッセージを国内外に広く発信していくことは、世界自然遺産5地域の持続的発展に向け、新たな契機となることを期待している。鹿児島県としては今後とも国及び地元市町村、関係の皆様と緊密に連携しながら世界自然遺産としての価値が維持され、貴重な自然環境が将来に渡って継承されるよう、自然環境の保全と利用の両立に積極的に取り組んでいきたい。皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

中村利雄イベント学会会長：

私は鹿児島県の企画部長時代に屋久島の環境文化村構想に携わり、ここの素晴らしさに目覚めた。役所を辞めた後は2005年の愛知万博の事務総長を務めた。そのテーマは「自然の叡智」というもので、わかりやすく申し上げると、自然の摂理に謙虚に学んで、持続可能な社会を築いていくというもので

ある。今でも光り輝くテーマだと思う。その理念を継承し発展させるため、愛知万博で生まれた利益の半分ほどを地球産業文化研究所に渡し、理念継承事業を行っている。この屋久島環境文化構想も我々の理念に一致するため、支援してきたという経緯がある。

その後、イベント学会の会長に就任し、大阪・関西万博協会から相談を受ける中で、何らかの形での応援を考えた。そこで、多様な主体が参加し多様な問題を取り上げていくプログラム TEAM EXPO 2025に参加しようと、3つのプロジェクトを考案した。その1つが、日本にある世界自然遺産5地域での、日本のアプローチがいかに関米と違い、自然と共生していく上でユニークな取り組みをしているかを積極的に世界に発信していくことである。2つ目は、「関西・歴史文化首都」構想。3つ目は、木曾三川を中心とした水と地域の共生を名古屋で行う。この3つのプロジェクトごとに TEAM EXPO に「チャレンジ事業」として登録し、イベント学会は「パートナー」として登録して各事業を実施していく。最初の取り組みとしては、各地域での取り組みの目的、内容、効果、課題を詳らかにした上で、それが持続可能社会を築く上でどういう意義を持っているかを発信していきたい。

これは2025年の大阪・関西万博の場で何らかの形で世界に発信することを考えている。まだ具体的なことははっきりしていないので、これから2年間かけて議論し、万博協会と相談していきたい。いずれにしろ日本が誇るこの5つの世界自然遺産を世界に認識してもらい、日本的なアプローチがどのようなものであるのか、その有用性を世界に発信できればこの上ない喜びである。今日お集りの皆様の知恵と経験を存分に発揮いただいて、この目的を達成できればと思う。

3. 議事

(1) 世界自然遺産5地域からの報告

小野寺浩屋久島環境文化財団理事長：5地域会議正式発足まで、事務局の私が「仮代表」になっているので、議事進行役を務めます（以下「進行役」）。世界自然遺産地域では、先発して「ネットワーク協議会」を行っているが、協議会会長の荒木屋久島町長とも相談をして、連携しながら進めようということで今日に至っている。

議事（1）では、今日お集まりの首長・公益財団代表、計24名すべての方に発言をお願いしたい。資料の11ページから22ページまで「5地域会議に寄せて」というタイトルで、事前に「発言要旨」を書いていただいたものがあるので、それに沿ってお願いしたい。

（以下、資料4「世界自然遺産5地域会議に寄せて～出席者紹介と発言要旨～」参照）

◆呼びかけ人9名の発言

小野寺進行役：初めに、前にお座りの「5地域会議設立呼びかけ人」の9名の方から、願います。

北海道斜里町・馬場隆町長：世界遺産登録前からの「しれとこ100平方メートル運動」は多くの共感を呼び「トラスト」へ発展。企業のボランティア受け入れなど交流事業や、環境教育、普及活動も特色。遺産登録後は、過剰利用やヒグマ対策など切実な課題に対し、利用調整地区制度などの仕組み作りを進めたが、ヒグマと公園利用や暮らしとの折り合いは、引き続き大きな課題である。

青森県西目屋村・桑田豊昭町長：古くから白神山地の自然と共生してきたマタギ文化があり、語り部が白神山地の魅力や価値を伝えている。遺産登録から30年を経て、受入環境整備に係る費用の捻出が課題。大阪・関西万博への参加を契機とし、世界自然遺産で育まれた日本独自の生活様式や四季折々の景観美などを国外へ情報発信し、本村への誘客にもつながることを期待する。

秋田県藤里町・佐々木文明町長：”環白神エコツーリズム推進協議会”では7自治体が連携した取り組みを推進中。白神山地は、制度上、保全は担保されているものの、利用推進に後押しのある国立公園指

定がない。施設更新時期に来ているが計画・財源も不足。遺産登録地周辺部の有効活用と一体的な活動が不可欠である。5地域会議には、スケールメリットを生かした実現力のある政策提言と、民間企業と連携した多様な財源の確保を期待。

京都小笠原村・渋谷正昭村長：小さな海洋島で独自の進化を遂げてきた固有の動植物が絶滅の危機に瀕しており、外来種対策が最重要課題。一方、遺産登録に伴う利用客の増加対策として自主ルールの運用等に取り組んできた。屋久島、奄美大島とはガイドの制度やルール作りで交流。世界遺産地域の価値の維持に、各地域の取り組みの良いところを利用させてもらいながら連携していけるよい。

鹿児島県屋久島町・荒木耕治町長：この30年で世界自然遺産の島として認知され、平成19年には40万人を超える人が来訪。登山道が荒れ、し尿も増えて小さな町に経済的な負担がかかるという問題も起こっている。屋久島町では、遺産登録20年目にメッセージを出して自然遺産地域ネットワークの結成を呼びかけ、4地域で年に1回集まって話をしてきた。1つの地域で悩むより、知恵を出し合っていきたい。私たちは白神と共にトップランナーとしてこれを引っ張っていく。

鹿児島県奄美市・安田壮平市長／代理=平田博行世界自然遺産課長：世界的にも貴重な自然環境のなかで育まれた独自の伝統文化が魅力の1つ。また人々の生活圏のすぐそばで、世界自然遺産を体感することができるのも特徴。持続的観光利用のため、オーバーツーリズム対策等に取り組み、自主ルールも運用中。また公民連携の場「世界自然遺産活用プラットフォーム」を立ち上げ、市民参加型で持続可能な自然共生社会を目指す。大阪・関西万博の活用と本交流を通じて、よりよい島作りを進めたい。

沖縄県国頭村・知花靖村長／代理=宮城明正副村長：米軍の演習場の過半の返還で遺産登録に至ったという経緯がある。現在「やんばる3村世界自然遺産推進協議会」を立ち上げて、希少種保護や森林の適正利用、ガイド養成などの課題に取り組む。魅力ある観光地づくりを目指して民間企業などと連携を図る活動も実施中。今後は、遺産地域全体の保全管理を一元化する組織体制も必要と考えている。

公益財団法人知床財団・村田良介理事長：地元町により設立され、利用施設の運営や国立公園の管理と適正利用、野生鳥獣対策、調査研究活動などに取り組む。「知る、守る、伝える」の3つに集約した言葉を柱に活動。公益財団法人として「野生動物や自然と人を繋ぐ」と「行政機関を繋ぐ」という2つの繋ぐ役割が使命と感じている。多くの課題も夢と考え、次のステップに進んでいきたい。

公益財団法人屋久島環境文化財団・小野寺浩理事長：世界自然遺産登録を目指す動きが出てきたのは、自然保護を前面に押し出した地域づくり「屋久島環境文化村構想」の策定中であった。構想は、島の個性を最大限に活かし、持続的振興につなげるとの考え方。遺産登録30年を契機にもう一度原点に戻り、5地域が重ねてきた苦労と工夫を整理し、自然保護と地域振興のモデルづくりや日本から世界へのメッセージの発信を考えたい。また5地域をSDGs研修の最適地としてアピールしていきたい。

◆呼びかけ人以外で会場参加の6名の発言

小野寺進行役：続いて、会場参加の、呼びかけ人以外の首長にお願いする。

鹿児島県瀬戸内町・鎌田愛人町長：海・陸2つの事例を紹介。海を事業活動の場とするダイビング業者、漁業関係者等が関係行政と連携して海域の保全・維持活動や海岸清掃を実施。陸域では、町民主体で外来植物生息マップを作成し、観光ルートの調査や外来種駆除活動にも従事。また「ゼロカーボンシティ宣言」のもと、中高生を含めた官民連携で藻場の育成などのブルーカーボンに取り組んでいる。

鹿児島県龍郷町・竹田泰典町長：大島紬の町龍郷町は、登録地のない周辺地域だが、この5地域会議に参加。今後とも奄美大島1市2町2村の一つとして、5地域会議と連携を取りながら、島の宝を次世代に引き継ぐため、島の交流人口を拡大し、島の経済が成り立つような努力をしていきたい。

鹿児島県徳之島町・高岡秀規町長：遺産価値の保全にあたり、地域に暮らす人々の理解がとくに重要と認識。近年アマミノクロウサギの生息数が回復し、交通事故件数の急増に加え、基幹産業である農作物

への食害被害が顕著化。町としては、共生を目指した取り組みを進めるとともに、人と自然が密接する関わり合いの中で生まれた文化を地域振興へとつなげ、国内外へのアピール強化を図りたい。

鹿児島県天城町・森田弘光町長：世界自然遺産登録はゴールではなくスタート。小・中学生を対象とした、世界自然遺産学習「あまぎ学」を実施している。ロードキルの発生が多かった県道において、周辺集落の児童や保護者の協力を得て、防獣ネットや児童の手作りによる注意看板を設置するなど対策を強化。今後は、人々の暮らしと希少野生動物とのより良い共存の在り方を検討していきたい。

鹿児島県伊仙町・大久保明町長：荒木町長から、世界自然遺産によって多くの出身者、子どもたちが誇りを持ったと聞き、登録の意義を認識した。奄美・琉球は、長く広いエリア。地権者との問題、アマミノクロウサギ、ノネコの増加、基地問題など、クリアすべき課題も多かった。これだけの時間をかけて世界遺産登録に辿り着いたことは、関係者の方々に改めてお礼申し上げたい。

沖縄県竹富町・前泊正人町長：島々の豊かな自然環境や文化は多くの観光客にも楽しんでいただいているが、課題も多く、観光案内人条例の制定やエコツーリズム推進法に基づく入域制限などに取り組んでいる。日本最南端の町である本町は、世界自然遺産の先輩4地域のみならず、奄美、徳之島、やんばるとも連携をとる機会は限られていた。今後はこの度できた場をしっかりと活用していきたい。

◆リモート参加者9名の発言

小野寺進行役：続いて、リモート参加者の皆さんに北から順にお願いする。

北海道羅臼町・湊屋稔町長：知床では、人が入り込む前から、海と陸に棲む動物たちの生態系が完璧に維持されていた。それが世界遺産登録の1つの意味でもある。先人であるアイヌの人たちの教えを後世に残していかなければいけない。2025年大坂・関西万博の年、知床は登録20周年を迎える。日本のみならず世界中にアピールできる場を皆さんと共有できれば、こんなにすばらしいことはない。

青森県鱒ヶ沢町・平田衛町長：世界遺産白神山地の区域内4町村のうち、鱒ヶ沢町は27.4%と1番大きな面積を占める。今、我々は地球規模での環境問題に直面しているが「自然」「森林環境」「生態系」を有する白神山地を始め世界自然遺産5地域が情報発信を強めることは、その解決に向けて大いに貢献することと思う。連携・協力し1つの自治体では実施できない新たな事業展開を期待している。

青森県深浦町・吉田満町長／代理=佐藤洋一副町長：町では、「白神十二湖エコ・ミュージアム」において、自然保護思想の普及と白神山地の魅力を発信。山岳部で活動するボランティア団体やガイド団体では、会員の高齢化が進み今後の活動継続が不安視されている。5地域会議の活動により、世界自然遺産が今まで以上に認知され、誘客促進、経済効果も向上することで、人材確保と地域活性化を期待。

秋田県八峰町・堀内満也町長／代理=日沼一之副町長：緩衝地域に指定されているニツ森からは、世界最大級のブナ林が一望できる。地域の遺産を次世代に守り継ぐための団体やガイドの会も活動中だが、世界遺産登録から30年を経過し、施設の老朽化、近年の自然災害による関連道路や遊歩道の崩落に係る整備費が増加している状況であり、その費用捻出が課題となっている。

秋田県能代市・齋藤滋宣市長／代理=幸坂晴二環境産業部次長：当市は人口5万人ほどの、白神山地の周辺地域。保護に向けては、市民が自然に接する機会増に取り組む。暮らしとの両立には、鳥獣被害に対し計画的な捕獲等の対策を実施。昨年は屋久島のガイドを招き、情報交換した。各遺産地域の現状と課題、管理、今後の方向を整理し、課題解決と地域の活性化につなげていきたい。

鹿児島県大和村・伊集院幼村長：奄美大島最高峰の湯湾岳の頂上に昨年展望台が完成し、環境省、宇検村と共に保護地域の利用ルールを決めた。また村では、ロードキル対策として、地元建設業と環境省とで道路にアマミノクロウサギを入れないようにする実証実験を実施中。併せて、怪我したクロウサギを保護し観察する施設の事業に着手しており、オーバーツーリズム対策にもつなげていきたい。

鹿児島県宇検村・元山公知村長：村有地も活用し、林業、畜産業、農業をつないで堆肥の原料調達から生

産までを村内で循環させるなど、自然保護と暮らしの両立を目指す。大阪・関西万博では、世界に認められた自然や集落文化の価値を地元として再認識し、ありのままをPRしていきたい。各市町村の自然や行事、産業や人々の暮らしのドローン映像配信などを考えたい。

沖縄県大宜味村・友寄景善村長：世界自然遺産に登録されると生業の農林業や地域での行為等が制限されるのではと心配する村民の声も少なくなかったが、登録を契機に地元の豊かな自然に気づかされ、魅力や大切さを認識するようになった。まずは地元に住んでいる人が自然や生物多様性の勉強を重ね、地域特性と魅力に理解を深める必要がある。そのうえで課題解決への方策が見えてくると思う。

沖縄県東村・當山全伸村長：地域内の「福地ダム」から本島の6割の水を供給する、水源の村。地元住民が主体となって密猟・盗掘防止に取り組んできた林道パトロールを柱に、新たな保全体験型観光コンテンツも開発中。公認ガイド利用推進条例（仮称）の制定にも取り組む。課題は、利用集中への対策、特定外来種駆除の労力や予算の確保。5地域会議には、民間企業、活動団体の結集を期待している。

小野寺進行役：どの地域でも悩みと工夫と努力が重ねられている。自然保護と暮らしをどう両立させていくか悩んできた人間の1人として、大変深く感じ入っている。その一方で、大変前向きな発言もたくさんあった。これを基礎にして、この5地域会議を次のステップに発展させていきたいと思う。

議事（2）世界自然遺産5地域会議の設立

小野寺進行役：議事（2）は、この5地域会議の設立に関することである。最初に中村会長から説明があったように、当面の目標は大阪・関西万博に参加し、5地域会議から世界に向けて、良いメッセージを発信できるようがんばりたい。会議の発足に当たり、補足があればお願いしたい。

地球産業文化研究所・蔵元進専務理事：補足等はとくにありません。

◆説明

小野寺進行役：5地域会議規約（案）について、事務局より内容説明をお願いします。

事務局（屋久島環境文化財団）・高良事務局長：5地域会議設立趣旨等について説明し、規約（案）を読み上げ。

<「世界自然遺産5地域会議」（仮称）規約（案）>

◆審議

小野寺進行役：以上の規約案について、何か質問や意見があれば、お願いします。

→「異議なし」との声

小野寺進行役：それでは、これで出席者全員の承諾により、5地域会議が発足した。名前も「仮称」を取って、「世界自然遺産5地域会議」としたい。

→拍手で承認

小野寺進行役：次に、役員について。この規約の第5条で、「本会に代表、副代表、幹事を置く」ことになっている。この場で、役員の選任までを行いたい。どなたかご意見はあるか。

佐々木藤里町長：代表は現在の仮代表である小野寺屋久島財団理事長、副代表は仮副代表である荒木屋久島町長にお願いしたい。幹事は、5地域会議設立呼びかけ人の全員が就任、ということでよいのではないか。

小野寺進行役：佐々木町長からご提案があったが、他にあるか。

→「異議なし」との声

小野寺進行役：それでは、今から、私が代表を務めさせていただく。副代表には荒木町長、よろしくお願

いする。

→拍手で承認

小野寺代表：代表、副代表、幹事が決まった。引き続き私が、議事進行役を務めさせていただく。

議事（3）5地域会議の今後の事業の方向、開催予定

小野寺代表：議事（3）では、今後の事業内容、事業展開について、意見交換をしたいと考えている。その前に、環境省本省から奥田自然環境局長に参加いただいているので、ご発言をお願いします。

◆アドバイザー等発言

環境省・奥田直久自然環境局長：たった今、5地域会議が正式に設立されたことに、お祝いを申し上げます。

今日の24人の首長のお話を聞いたことは何物にも代えがたい貴重な機会だった。東京に戻って、世界遺産の政策に役立てたいと思う。

まず今日の感想を述べたい。1つは、まさにこの5地域会議の目的に合致する、文化と結びついたお話が多かったと感じた。例えば祭りが世界遺産に登録され復活するとか、地域の文化の見直しに役立ったということ。これは最初に環境省が世界遺産の登録のために、ユネスコとやりとりしているなかでは、必ずしもハイライトしてこなかった。その時代からはだいぶ発展したのだということを感じた。

2点目は地域振興への期待というのが当然ある。しかしそれは経済的な部分だけではなく、おそらく地域の人たちの誇りを取り戻す、もしくは地域自体をもう1回見直してみようということが多くあった。まさに地域の人たちに学習、教育を更に進めようという話や、更には地域の人たちに参加してもらう、理解してもらうという、首長たちの姿勢はすばらしいと思う。

そのほか個別の課題があった。共通する課題も多くあったが、それぞれの地域ごとに違うと感じた。遺産地域というのはOUV＝顕著な普遍的価値、他のところにはない価値が認められてそこが指定されている。それぞれごとに考えなければいけないが、横串を刺すことによって何か見えるものもあるだろう。5地域会議の役割はそこにあるのではないかと感じた。本来ならば環境省、林野庁、文化庁とも一緒になって、横串を刺すものを作るべきだったかと反省している。そういったものを地域が主体となって設立されたこと感謝を申し上げます。

世界自然遺産の最大の特徴は文化遺産と自然遺産が一緒の条約の中で語られることである。現場レベルでの管理や日本が世界に発信していくときには、そこを突っ込んでいくことが重要だと思う。今回の5地域会議の目的に書かれた、世界への発信は、世界遺産の原点に戻ろうということなのかと思う。

最後に参考文献として『世界遺産の50年：文化の多様性と日本の役割』（ブックエンド）という本を紹介する。ぜひ各地域の方々にも読んでもらいたい。

小野寺代表：次に、学術顧問をお願いしている岩槻邦男先生からメッセージをいただいているので、読み上げる。

<世界自然遺産5地域会議へのメッセージ（岩槻邦男）>

「世界自然遺産5地域会議」の発足、おめでとうございます。この連合体の結成を発想され、成立に漕ぎ着けるまでの準備に努めて来られた方々のご努力に敬意を表します。

世界自然遺産が、それぞれの資産ごとに世界遺産の理念に沿った個別の活動を展開されるのは当然ですが、その活動を統合し、日本列島の5自然遺産をひとつの単位と捉え、日本に伝統的な「人と自然の共生」の概念に基づいて、保全と両立した健全な生活の展開が図られるよう期待します。日本列

島の自然に裏打ちされて育ってきた日本文化のすぐれた面を、日本の世界自然遺産の在り方を典型例として地球規模で展開することにより、結果として地球の持続的な利用(SD)の実現につながることを期待されます。

小野寺代表：岩槻先生とはリモートで繋がっている。一言お願いする。

岩槻学術顧問：白神と屋久島が世界自然遺産に登録されちょうど30年の機会に、5地域会議が結成されるということは、非常に有意義なことだ。

登録、追加登録のための準備、登録後の活動について、日本の自然遺産は非常にいい状況で、それぞれの地域や行政がサポートし展開している。ただ、自然遺産とは何かという問いかけをされたときに、5つの資産の間の連携が必ずしもいい具合に進んでいるとは言えない。これを機に、個々の資産の努力の上に、日本の自然遺産とは何かというアピールができればいいのではないかと。

更に、日本の自然遺産は、50年前に締結された世界遺産条約が20年経ってから、批准され登録された。また日本では、自然遺産側がリードして、文化遺産はその後についてきた。このことも踏まえ、自然遺産と文化遺産の意味付けを、日本で世界遺産とは何かという問題として、この連合体からアピールしていければと思っている。

◆意見交換

小野寺代表：それでは、今後の進め方について意見交換したい。現在事務局としては、今後の事業として以下のようなことを考えている。

まず、大阪万博にどういう提案をするかを考えていきたい。最低でも2023年から本番まで3年間は検討を続けていくつもりである。その中で万博へのメッセージはもちろん、日本型の共生、自然遺産と文化遺産の関係、環境文化といった概念を深めていくよう同時並行で考えていきたい。また地域の実情を踏まえて、政府その他に政策提案ができないか、万博と並行して考えていきたいと思う。

今回めでたく1回目が終わり、発足することができた。来年は何をするのか。今日の議論を整理し、次回に挑みたい。次回は東京、あるいは万博のある大阪で行うというのも1つの案かと思う。来年度はいろいろな事業があるので、いつやるかの時期については改めて相談させていただきたい。

今後の活動方針について何か意見はあるか。このような方向で了承していただき、また個別に相談させていただくのでよいか。

→会場から特に意見はなく、承認

小野寺代表：以上をもって議題は終了した。5地域会議では民間企業、NPO、学者も含めて広く参加を募ってきたいというのが基本的な考えである。現在構成メンバーとはなっていないが、民間企業で今出席の方からも発言があればお願いしたい。

JAL 鹿児島支店長・久見木氏は、奄美と沖縄でそれぞれ、世界自然遺産推進のための「共同企業体」を組織し、活動されている。これからこの5地域会議のメンバーを増やしていくなかで、もしかしたら1つのモデルケースになるかもしれない。

世界自然遺産推進共同体・久見木大介代表（日本航空株式会社鹿児島支店長）：私は奄美大島と徳之島の「世界自然遺産推進共同体」の代表となっているが、沖縄では「世界自然遺産推進共同企業体」というものがある。鹿児島の方は、日本航空（株）、日本エアコミューター（株）、（株）NTT ドコモが発起企業となって立ち上げた。沖縄の方は、日本トランスオーシャン航空（株）、日本郵便（株）沖縄支社、（株）NTT ドコモ、（NPO）どうぶつたちの病院沖縄、（一財）美ら島財団が、発起企業となって立ち上げている。元々は2018年に世界自然遺産登録が延期になり、企業が横断的に取り組んで環境

保全の気運を盛り上げ、官民一体となって登録に貢献していければという思いで立ち上げた。

立ち上げの際は50社だったが、2023年1月の段階では67の企業・団体まで増えた。奄美群島の観光関連の企業・団体が中心だが、それ以外の企業も入っている。まずは企業の社員に世界遺産の島の宝に関心を持ってもらうところから始めている。関心を持つと、知りたいという意欲が出てくる。知ると、守りたいという意欲が出てくる。そのうえで我々は民間企業なので、世界自然遺産を活用したいという思いがある。保全と活用を、うまく循環させていけるような取り組みをしていきたい。

共同体としての課題は、企業として専属ではできないので、なかなか人員を割けない、また財源はなく各企業がそれぞれ持ち出しで取り組みをしている、という2点。いろいろ悩み事はあるが、地道にやっていくしかない、奄美群島の持続可能な発展に貢献できれば、という思いで取り組んでいる。

小野寺代表：屋久島にルーツのある馬場製菓から、初めに企業的な成功を収めた「ぼんかんもなか」が売れた場合には、売り上げのなにかを屋久島財団にいただける話が動いている。世界遺産登録30周年記念のケーキを鹿児島城山ホテルと共同制作し、売り上げの何%かを寄付、との話も進行中。他にも馬場氏が媒介し、屋久島でウナギ生産に取り組む話がある。やる気のある企業と研究し、屋久島財団、町ともなんらかの協定を結ぶことも将来的に考えられる。馬場さん、一言お願いします。

馬場製菓・馬場甚史朗顧問：30年前に屋久島が世界自然遺産になり、30年経って地元の人たちが潤っているかという、決してそうでもない。屋久島が貧しいのは、働く場所がないからである。しかし働く場所を国に言っても仕方がない。自立自強、自分の足で立たなければいけない。国に頼らず自分の力で、商品開発し、食文化の交流を通じて、新たなものを作り出したい。

世界自然遺産になったのは屋久島の自然であり、我々はそこに住んでやがて死んでいく。そのときに、屋久島は残るが何も商品は残らない、となるのはおかしい。そのため、屋久島のポンカンや、サバ節、トビウオの出し汁を使ったり、ウナギの商品ができないかを考えている。ここまで首長に盛り上げていただいているのであれば、住んでいる企業の私たちが協力し、新しいものを作ることによって提言もしていきたい。企業も勉強し、世界自然遺産で潤えるよう努力するべきだと思った。

小野寺代表：非常に力強い言葉をいただいた。個別の企業だけでなく、例えば企業研修を受けるならば、自然遺産地域でやってほしいと広域の会議からアピールすることもいい。今後は、今日発足した5地域会議の活動を充実させていきたい。

4. 閉会

司会：これをもちまして、第1回世界自然遺産5地域会議を終了いたします。屋久島町荒木耕治町長より閉会の挨拶をお願いします。

閉会挨拶（荒木耕治 屋久島町長）：本会成立に、心より感謝を申し上げます。活動の第一弾として2025年大阪・関西万博への参加を通じ、世界に向けたメッセージを発信するため、ご協力いただきながら進めていく予定である。世界遺産を有する自治体は、評価された自然の価値は異なるものの、その価値を損なうことなく未来に向かって保全する共通の使命を持っている。日本に5地域しかない価値の啓発と保全に向けた主体的、継続的な取り組みを本協議会で共有していければ幸いである。

最後になるが、世界自然遺産地域ネットワーク協議会についても、本年、遺産登録30周年に合わせ、本町での総会開催を予定している。多数のご来島をお待ち申し上げて、閉会の挨拶とする。